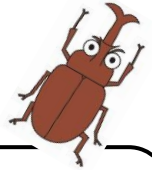




まなびや

東市ケ尾



資質・能力 開花のために

校長 霜田 恵子

今年の夏もとても暑い日々が続きました。みなさま、いかがお過ごしでしたか。

パリオリンピックの熱戦が連日報道され、スポーツ観戦好きの私はテレビの前に釘付けでした。自分を信じて勝利を目指し、一生懸命に挑む選手の姿は、見る者の心を惹きつけます。けがや病気、不調を乗り越えて、スティックに鍛錬してきた日々を報じる番組もあり、努力が実を結んで喜びを爆発させる選手の姿にはもちろん、結果に恵まれず人目を避けてうなだれていてもカメラの前では気丈に取材に答える姿にも感動しました。体操・柔道・レスリング・卓球などメダル獲得の期待が大きく、人気のある競技は繰り返し報道されていたので、大勢の方がご覧になったのではないのでしょうか。

一方で、スケートボードやフェンシングなど日本としては歴史の浅い競技でも活躍が目立ち、メダルを獲得しました。フェンシングでは、「なぜ、急速に強くなったのか。」という問いに、「優秀な外国人コーチを招聘でき、実力を向上させることができた。そのコーチを頼って各国のライバルたちが合同練習をリクエストしてきた。そのことが強化につながった。」という記事を目にしました。また、選手がインタビューで「過去のオリンピックで活躍した選手に憧れて競技を始めた。」と語り、競技人口が増え、選手層が厚くなったこともこのような結果につながる要因となりました。活躍する選手は、技の精度を上げるために妥協をしないで繰り返し自分を磨こうとするし、データ分析やオリジナリティあふれる技の開発に意欲があるように感じました。さらに、自己を調整する力や探究心が優れているように思いました。コーチや憧れの存在に加えて、他者から吸収し、自己を鍛錬する能力が備わっていたために生まれた好結果と言えます。

スポーツに限らず、「憧れの存在に出会うこと」「未知の分野に興味を抱き、試してみること」「順調にいくことばかりでなくても、すぐ投げ出さず粘り強く取り組むこと」「よきライバルと切磋琢磨しあうこと」「自己分析し、自分らしさを極めること」「さらに向上しようと探求すること」などが大事なのだと思います。子どもたちの中に眠る資質能力、もって生まれた才能を開花させるには、まずは「出会い」と「チャレンジ」と「自分づくり」が大事!!と思いました。

子どものあいさつは学力向上につながる!

先月号でお伝えした子どものあいさつですが、「学力向上につながる」ことがデータから認められました。8月22日付の青葉区版タウンニュースでも紹介されましたが、桐蔭大学理事長 溝上慎一先生のご尽力で、皆様にご協力いただいたアンケート調査の分析が進み、学習意欲や、対話的な学び、探究的な学び等の向上とあいさつの関係が認められました。調査結果は、後日お示しする予定です。

これを受け、まずは大人からあいさつを積極的に行い、あいさつを奨励していこうと思います。そして、子どもたちが将来を生き抜くために必要な力を義務教育期間にしっかり身につけられるよう、それを発揮して豊かな自己実現につなげていけるように努めていきたいと思っています。

